

香川県建築職・設備職に関心を持っていただけるように、中堅職員からみた建築職・設備職の魅力や職場環境について語る座談会を行いました。その内容をご紹介します！

○話を聞いたメンバー

中野さん（建築職・H23 年度入庁）
永田さん（建築職・H24 年度入庁）
真鍋さん（建築職・H24 年度入庁）
北川さん（電気職・H24 年度入庁）
土居さん（建築職・H25 年度入庁）
津郷さん（電気職・H25 年度入庁）

○公務員を目指したきっかけ

北川：先輩や友人がどんどん県外で就職して、今後も故郷から人が減っていくような寂しさを感じ、何とか食い止められないか、自分の専門を活かして、人がまた集まるように何かできないかというのが、技術系の公務員に興味を持ったきっかけでした。

永田：大学で都市計画を専攻していて、行政に就職する先輩が多かったので、就活前から選択肢としてありました。地方都市の活性化に関わる仕事がしたいと思っていて、そういう仕事をする自分自身が「地方の若者流出」の内の一人になるのは違うなと思って、地元に戻ることを決めました。

津郷：子供の頃から、全体に対して仕事をする、みんなのために働くというイメージから公務員になりたいと考えていました。技術系の勉強をされていて、偶然、香川県の採用募集があったので、やっぱり選ぶのなら地元と思い、採用試験を受けました。

土居：1つの分野・領域のプロフェッショナルになるというよりは、何でも平均的にできるみたいな自己分析をしていたことと、自分の気質が公務員に合っているだろうなということ、地元に戻ろうということで、香川県庁を志望しました。



○印象に残っている仕事

真鍋：県立アリーナの整備です。大規模な事業で、工事から担当させていただきました。特徴的な意匠と高度な構造計画に対して、施工者が長年培ってきた技術力や最新のデジタル技術などを駆使した施工

で多くの課題を解決して竣工しました。とても貴重な経験をしたなと思っています。

中野：初めて新築を設計させてもらった物件で、やりきれなかったことがあって、今でき上がったのを見ても、ああって思ってしまう。未だに見に行きますが、デザインをもっと考えたらよかったのにと後悔しているのですが、今後の仕事で残るものは反省を活かしたいと思っています。

津郷：違反建築物対策は印象に残っています。所有者、設計者から提示された改善計画をみながら、厳しい話をしなければならなかったのですが、こういうのは行政の仕事だなと思いました。

永田：住宅課で担当した大規模なイベントの企画です。様々な企業や団体の皆さまから協力を得ながら、キャラクターショーやタレントさんの出演の企画もするなど、建築職ではなかなか体験できない仕事をさせてもらいました。県では、いろんな仕事のバリエーションがあるので、仕事をしながら自分が活躍できる場所を見つけていくというのは良いなと思っています。



○職場の雰囲気

土居：行政、公務員なので、コンプライアンスの意識もありますので、パワハラ的な体質は全然感じません。建築、土木の業界は一般的にキツイというイメージがあるかもしれませんが、上司の人も含め、気軽に話しやすい人が多いと思います。

真鍋：建築職と設備職で3人の同期に加え、県庁内の同期とは、プライベートでも旅行や飲みに行ったりしています。県内の民間企業に比べたら、同期の数も多めなので、こうした横の繋がりが良いなと思います。

○自己研鑽や資格取得

中野：一級建築士の試験勉強については、業務にしっかり取り組む中で試験の勉強に直結するところもあると思います。特に、法律の知識は、自分の能力向上につながるかなと思います。

津郷：設備職の勉強会の企画をしています。今年度は外部から講師を招いて講習会を開催したり、新しい基準などを調べて発表したりしています。

真鍋：職場の勉強会で、仕事をスムーズに遂行するためのスキルアップを目標に、一般的な業務スキルについて学ぶ機会がありました。各自で調べて発表を行うのですが、僕は、ロジカルシンキング（論理的思考）やタイムマネジメントについてまとめました。技術職ではありますが、もちろん事務業務もあるので、効率的に業務を行う上では勉強してよかったと思います。

○香川県の魅力

北川：県全体がコンパクトで、道路の舗装率も高いし、車があればどこへでも行けます。気候も穏やかで、住むところとして、魅力的だなと思います。

中野：広い県と比べると、職場の異動があっても引越す必要がないというのはすごいメリットなのかなと思います。

土居：東京から遊びに来た友人から「四国ってとんでもない田舎のイメージだったけど、高松はけっこう都会だね」ってよく言われます。生活するには全然困らないぐらいの十分な商業施設が集約されている一方で、車で2、3時間も走らせたらもう四国の大自然も体験できるのは魅力です。



○これからのキャリア

中野：僕は民間経験がないので、民間派遣に行ってみて民間の知識を深めたいと思っています。民間のやり方に関心があります。

永田：住宅施策に取り組む中で、時には目先の課題や目標にとらわれることもあります。都市計画や農業振興など、広い視野や目的を持ってできたらいいなと思っています。

真鍋：公務員の建築職のいいところは、いろんな面から、建築やまちづくりに携われるところかなと思うので、未経験の業務にも取り組んでみたいなと思っています。

北川：県内にはたくさんの施設があり、様々な種類の工事に携わることができます。母校や自分の思い入れがある施設の改築や大規模改修をするチャンスがあれば、ぜひやってみたいです。

土居：事務職と比べて、技術職はどうしても配属される範囲が狭いというところがあって、それはよさでもあるでしょうし、一方それ以外の仕事をするのがないとも捉えられますが、行政課題が複雑になってきている中、その人が持っている技術や経験を活かして、別の部署でお手伝いをするみたいな働き方も最近出てきています。都市計画法の開発許可や建築基準法の知識や経験を培ってきたので、香川県が力を入れている企業誘致に携われる機会があれば、やってみたいというのはあります。

津郷：他の自治体や国などとの人事交流の機会を得て、新しい知見を得ることが出来たら、今後に生かしていけるのかなと思っています。

○香川県建築職・設備職をという選択をぜひ！

北川：初めは社会人として右も左も分からないような状態でしたが、上司や先輩、仕事で関わった民間技術者の方々からのご指導のおかげで、何とか仕事ができるようになりました。飛び込んでみてからでも何とかなるので、少しでも興味があれば、県庁への就職も考えて欲しいなと思います。

土居：自分の好きなこととか趣味を仕事にしたら、かえってそれが嫌いになってしまうみたいな話はよくあると思いますが、そこまで好きでもない、でも別に嫌いでもないぐらいの、ちょっとほんやりしたところを仕事にするっていうのも1つのやり方だと思います。建築に興味があって、たまたま大学でその道に進んだけど、1つの分野・領域に決められない、いろんな形で建築に関わりたいたいという人こそ、公務員がいいんじゃないのかなと思います。

